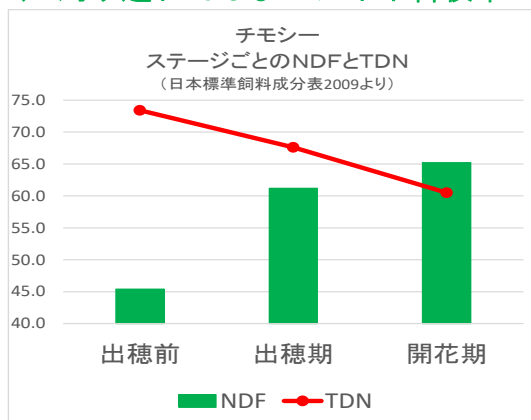


あしよろ・ハードサポート通信

雨の多い夏で全道的に1番牧草の収穫が大幅に遅れました。長く続いた低温と長雨でデントコーンの発育も心配されましたが、最近では、いくらか回復傾向のようです。

◆ 刈り遅れてしまったイネ科牧草



左表は前にも掲載したもので、チモシーの生育ステージが進むにつれてNDF（セナイ）が高く硬い牧草になり、TDN（エネルギー）が下がっていくことが示されています。

セナイ含量が少ないやわらかい牧草はたくさん食べてくれますし、刈遅れてバキバキの牧草ほど残シが増えます。

乳牛が喰い込める限界はセナイ含量で決まるため、栄養価よりも何よりも先に、「充分量を喰わないかもしれない」ことが、刈遅れ牧草の最大の課題になります。

◆ できるだけ短くカットする



長さ30cmの荷ひも5本を、ルーメン内の牧草セナイに見立ててコップに入れた様子が写真左です。荷ひものガサでコップがいっぱいになりました。

写真右は、同じ長さの荷ひもをハサミでカットし、コップに戻したものです。コップにはまだまだ余裕があります。

牧草を切って与えると、より多くの採食量が期待できることがイメージできます。



ロール牧草をカットするには、写真のようなロールカッターや、収穫時にカッティングロールベラーを活用することが挙げられます。いずれも機械導入の費用がかかります



が、例えばロールカッターは、およそ 200～300 万円で、翌年以降も使えることを考えると、規模によっては十分に投資効果が見込めるのではないのでしょうか。

頭数が少ない場合は、ちょっと写りが悪いのですが、労働力が許すなら左のような人力で切るロールカッターを使うのも一手です。

【そのほか、やってみたいこと】

- ・糖蜜や醤油粕などをかけてフレーバーを付けて、なんとか食べさせること
- ・自家産の牧草を食べない分は、ビートパルプやルーサンペレットのようなセイヤ源飼料を増給して補うこと
- ・思い切って、消化性の良い粗飼料を購入し、一部を置き換えること

◆ 粗飼料分析にかける

メニュー全体の栄養バランスを確認するために、牧草を分析にかけます。飼料会社さんには粗飼料分析サービスを行っているところが多いので、尋ねてみてください。

その結果を踏まえ、必要であれば配合のCP（タンパク）やTDN（エネルギー）をレベルアップさせます。給餌品目が増やせるのであれば、牧草のCPが低ければタンパク源飼料の大豆粕ミールを、エネルギーが低ければデンプン源の圧ぺんコーンの増給を考えます。



— 昨年の秋から春にかけて、「例年と同じ管理なのに」異常乳のトラブルが続いたことがありました。当然、気候にも左右されますが、最も大きかったのは牧草の栄養価だったのではと思っています。

乾物摂取量が少ない（食えない）と、乳量減だけではなく、栄養不足からの異常乳の割合が増えたり、繁殖成績の不振、免疫力低下など、乳牛の健康そのものを害するリスクが高まってしまう。

早めに手を打っていきましょう。（久富聡子）

-
- ・前回の酪農女性勉強会で女性陣から「まずは、町内の酪農場の視察に行ってみよう！」という声をいただきました。11月に視察を企画する予定です。それに向けて、次の9/18（火）第3回勉強会では、牛舎施設やカウコンフォートについて取り上げます。次回も昼食持参で、どうぞお集まりください。